

ビッグ・アイセミナー

# アトリエコーナス ロンドン紀行

～海を渡った巨匠たち～

日時 2016年10月1日(土)  
14:00～16:00(開場 13:30)  
会場 ビッグ・アイ(国際障害者交流センター)  
大研修室 手話通訳・要約筆記付/補助犬同伴可  
定員 70名(参加無料・事前申込制・先着順)



西岡 弘治

スピーカー 白岩 高子(アトリエコーナス施設長)

モデレーター 中津川 浩章(美術家/アートディレクター)

フランスでの企画展に続き、海外で2度目となるロンドンでの展覧会。開催までのエピソードや、障がいのある人とともに海外を旅することなど、障がい者自身がチャレンジできる機会や可能性を求め活動続けるアトリエコーナスの白岩高子さんが語る。

## アトリエコーナスとは

大阪市阿倍野区に設立された重度知的障がい者の生活介護施設。誰もが癒される中庭のある町屋で、自由なアート活動を行っている。作品の多くは国内外で大きな評価を得ているが、アトリエは創作の場だけでなく、地域に根ざした活動や多様なネットワーク構築にも努めている。

## ロンドン紀行によせて — 白岩 高子

コーナスアーティストが2016年9月初旬ロンドンに招聘された。重い自閉症といわれる彼らが、海を越えて展覧会の中に自分の作品を確認する旅にでた。この幸せな旅の報告は、障がいのある人だけでなく、全ての人に可能性があることや、後に続く人・支援する人に、大きな励ましと喜びを共有できればと思う。また、2012年ロンドンパラリンピックの成功が、障がいのある人たちに何をもちたらし、街がどう変わったかをも、この目で確かめ体感できることを期待し訪英した。



大川 誠



植野 康幸



白岩 高子(アトリエコーナス施設長)

難治性てんかんをもつ次女の誕生を機に、1981年障がい児親の会設立。1993年共同作業所の立ち上げ後、2005年に町屋を拠点に地域に開かれた場をつくりながら、皆で夢をみていこうとアトリエコーナスの主宰者となり現在に至る。



中津川 浩章(美術家/アートディレクター)

美術家・画家として記憶・痕跡・欠損をテーマにブルーバイオレットの線描を主体としたドローイング・ペインティング作品を制作。国内外で展覧会多数。アートディレクターとして障がい者のためのアートスタジオディレクション、アールブリュットの展覧会キュレーション、あらゆる人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティングなど、アート、福祉、教育とさまざまな分野で社会とアートの関係性を問い直す活動を行っている。

主催：国際障害者交流センター／協力：アトリエコーナス

申込締切 2016年9月20日(火) 必着

申込方法はチラシ裏面をご覧ください。